

# た か し

<http://www.suginami-school.ed.jp/takaido4shou/>

杉並区立高井戸第四小学校

## 雲外蒼天

校長 加納 直樹

コロナ禍の中、いろいろな意味で、忘れることができない令和3年度の夏休みが終わり、2学期がスタートしました。9月12日で解除される予定だった緊急事態宣言は9月30日まで延長され、9月13日に出発するはずだった56年生富士学園移動教室は残念ながら延期となりました。

移動教室を楽しみにしていた子供たちの大きな落胆を心配しましたが、「やっぱり緊急事態宣言延長か」「仕方ないな」「中止じゃなくて延期でよかった」など、私の予想に反して、子供たちは思いの外冷静で驚きました。56年生の素直さと成長を感じる反面、これまで我慢を続けてきた学校生活の長い時間の中で、今大騒ぎしてもどうすることもできないという考え方が身に付いているのかもしれないと思うと、すこし可哀そうにも感じました。何としても移動教室に行き、友達と過ごした2泊3日の楽しい思い出を作らせてやりたいと強く感じました。

表題の「雲外蒼天(うんがいそうてん)」ですが、「雲を突き抜けたその先には、青空が広がっている」というこの言葉を聞くと、小学校3年生の夏休み、家族と四国へ旅行に行くときに、初めて飛行機に乗った時のことを思い出します。生まれて初めて飛行機に乗るので、胸を躍らせながらその日を楽しみにしていたのですが、当日は残念ながら悪天候で、空はどんよりと暗く雨が横殴りに降っていました。空港に行き、飛行機に乗り込んで出発するときには、最初に抱いていたワクワクした気持ちはどこかへと消え去り、不安な気持ちになりました。そして機体が空へ飛び上がった瞬間には、ガタガタと揺れる機内で恐怖を感じ「怖いよ!」と、母親の腕にしがみついていた記憶があります。しかし、数分後飛行機は黒い雨雲を突き抜け、その瞬間から、これまでとは別世界のような鮮やかな明るい青空と白い雲の絨毯が窓の外いっぱいになりました。「すごい!」感動している私の横で、母はニコニコ笑っていました。文字通り、「雲を突き抜けたその先には、青空が広がっている」という光景でした。(この「離陸」体験を上回る恐怖の「着陸」体験がこの後待ち受けていましたが、幼い私はこの時にそれを知るはずありませんでした…余談ですが)

転じて「雲外蒼天」は、「努力して苦しみを乗り越えれば、素晴らしい世界が待っている」という意味でも使われます。

新型コロナウイルス感染症が全国に拡大し、医療体制はひっ迫し、緊急事態宣言が延長となり、先の見えない長いトンネルの中にいるような気さえする状況でしたが、「雲外蒼天」のごとく、これから先はコロナ明けとなり、青空が広がる日が訪れると信じ、1日1日を大切に子供たちと共に過ごしていきたいと思っています。